

教科(科目)	地理歴史（歴史総合）	単位数	3単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	山川出版社『歴史総合 近代から現代へ』				
副教材等	第一学習社『ダイアログ歴史総合』 山川出版社『歴史総合問題集』				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	○地域社会と積極的に交流することで、各自の興味・関心に基づく課題を見出し、学習活動で得た知識・技能をもとに、論理的に思考し主体的に解決策を見出す能力を育成する。 ○自分の主張を分かりやすく他者へ伝え、異なる主張に対しても、協調的に意見交換しながら合意形成を図ることができる能力を育成する。 ○正解のない問いや、困難な状況に際しても、他者と協力して、粘り強く挑戦し続ける態度を育成する。 ○自分のよさや強みを自覚し、うまくいかない状況に際しても、自己をうまく管理する柔軟な態度を育成する。
カリキュラム・ポリシー	○情報端末や、教育サービスを積極的に活用し、すべての生徒が主体的かつ意欲的に学ぶことができる教育活動を展開する。 ○個々の生徒の特性や理解の状況に応じた最適な学びを提供し、かつ生徒が互いに交流しながら協調的に学びあえる授業を行う。 ○地域社会と連携することで、豊かな体験活動の場を設けながら、教科とも連携した探究学習を行う。 ○生徒が自らの学びを振り返るとともに、教師が指導の改善を図ることができる学習評価を行いながら、常に教育活動の質の向上を図っていく。

2 学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ、効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 指導の重点

- 1 近現代史を中心に基本的な歴史事項や流れを学習します。その上で、対外関係や文化形成の面で、他地域とどのような関係を築き、影響を受けてきたのかを理解することを目指します。
- 2 国際関係の動向や他地域との交流の中で形成されてきた歴史の展開を、様々な歴史史料を活用し適切かつ効果的に調べまとめる技能を習得し、自分の考え方を確立させることを目指します。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界との中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ、効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める力を身に付けている。

5 評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト、小テスト ・レポートの内容 ・ワークシート などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・単元テスト ・レポートの内容・発表 ・ディスカッション などから総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・レポートの内容・発表 ・ディスカッション ・課題の提出 などから総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。 内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	授業 時数	評価方法
4	第1章 結びつく世界	教科書 資料集 課題プリント等	・アジアにおける生産と流通、アジアと欧米の貿易などを中心に、アジア諸地域の繁栄と日本について学習する。 ・ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出について、多面的・多角的に考察する。	10	小単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 行動観察
5 6	第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第3章 明治維新と日本の立憲体制	教科書 資料集 課題プリント等	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを中心に、工業化と世界市場の形成について学習する。 ・アメリカ独立革命とフランス革命について、多面的・多角的に考察する。 ・西アジアの変容と、南アジア・東南アジアの植民地化について、多面的・多角的に考察する。 ・日本の明治維新や明治初期の対外関係、自由民権運動と大日本帝国憲法の制定などを中心に、立憲体制の形成について学習する。	23	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 行動観察

7 ・ 8 ・ 9	第4章 帝国主義の展開とアジア 第5章 第一次世界大戦と大衆社会	教科書 資料集 課題プリント等	・列強の進出と植民地の形成、条約改正と日清・日露戦争などを中心に、帝国主義政策の特徴、列強間の関係の変容について学習する。 ・日本の産業革命と教育の普及について、多面的・多角的に考察する。 ・第一次世界大戦の展開、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、国際連盟の成立などを中心に、総力戦と戦後の国際協調関係について学習する。 ・アジア・アフリカ地域の情勢と民族運動について、多面的・多角的に考察する。 ・大衆消費社会と市民生活の変容、社会・労働運動の進展と大衆の政治参加について、多面的・多角的に考察する。	19	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 行動観察
10 ・ 11 ・ 12	第6章 経済危機と第二次世界大戦 第7章 戦後の国際秩序と日本の改革 第8章 冷戦と世界経済	教科書 資料集 課題プリント等	・世界恐慌、ファシズムの台頭などを中心に、国際協調体制の動揺について学習する。 ・日本の恐慌と満洲事変、日中戦争と国内外の動き、第二次世界大戦と太平洋戦争の展開について、多面的・多角的に考察する。 ・国際連合の成立、冷戦の開始、日本の独立回復などを中心に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰について学習する。 ・アジア諸地域の独立について、多面的・多角的に考察する。 ・冷戦が各国経済に及ぼした影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目し、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容について多面的・多角的に考察する。	31	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察および発表 行動観察
1 ・ 2 ・ 3	第9章 グローバル化する世界 第10章 現代の課題	教科書 資料集 課題プリント等	・冷戦の終結、民主化の進展、地域紛争の拡散などを中心に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題について、多面的・多角的に考察する。 ・興味関心に基づき、テーマを決めて探究学習を行う。	22	単元テスト ワークシート ワークシートを用いた考察及び発表 行動観察

計105時間 (50分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元テスト、復習プリント (知識が定着しているかどうか)
- ・課題レポート (テーマに対して客観的に思考して主体的に判断し、適切に表現できているか)
- ・ノート・ワークシート (授業中の取り組み状況を確認する)

8 担当者からの一言

歴史総合は世界の諸地域と日本の歴史について近現代史を中心に学習します。対外関係や文化など周辺諸地域との密接な関係や相互に影響しあいながら現在までの歴史を刻んできたことを、多角的に考察してほしいと思います。そして、歴史を単に知識としてとらえるのではなく、現代社会にも歴史的経過が大きく影響していることをしっかりと意識してほしいと思います。なお、指導計画は行事等の事情で変更される場合があります。